

# 佐渡米通信

# こめる

2019年 04月号

発行日:2019年4月

編集人:佐渡農業協同組合 営農事業部米穀販売課 山田・藤巻  
Jasadoeinoubu20@dune.one.ne.jp

## 佐渡米づくり本格始動

4月に入り、本年産米の種蒔き作業が各農家の作業場で始まりました。暖冬で雪の少ない今年の冬でしたが、3月は気温が低く雪が降る日もあったので、種蒔き作業が遅れることを心配しましたが、JAの指導どおりの4月10日以降から本格的に始まりました。種蒔き作業の手順は、①苗箱に敷き詰めた土にたっぷり水を含ませ、②ハト胸状態に十分ふくらんだ種籾を、土の上に均一に蒔いて③その上に柔らかく土を被せた後、ビニールハウスに並べ、シートを被せます。シートの中やハウスの中の温度に気を付けて管理して約10日するときれいにそろい、5月上旬の田植えまで、毎日朝晩、ハウス内の水と温度の管理に気を付けて、青々とした立派な苗に仕上げられます。



種蒔き作業の動画が  
ご覧いただけます



## 米穀販売課 新体制のお知らせ

3月1日より、人事異動により米穀販売課が新体制となりました。引き続きご指導、ご鞭撻の程を宜しくお願いします。

課長 渡部 学  
係長 田中 照美  
担当 山田 慎  
担当 伊藤裕美子  
担当 藤巻 花穂

係長 中川 政男  
主任 佃 直樹  
担当 鶴間 武  
担当 山口智恵美



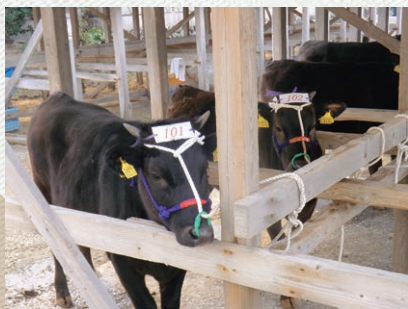
## 未来の担い手育成中

3月28日、「おけさ柿担い手育成塾」が行われました。この育成塾は、将来柿農家を目指している人や、柿の栽培に興味がある人向けに毎年行われている講習会で、現在は4期生23名が受講しています。全15回開催される講習会の中で、今回講習の「剪定作業」は剪定する枝を見極めるまでに時間がかかるため、特に重点を置いて講習が行われています。最初はどの枝を切って良いか分からなかった塾生も、回を追うごとに剪定する枝を見極められるようになりました。



## 高価格に手ごたえ

4月2日、「高千家畜市場」で109頭(子牛95頭、成牛14頭)の競りが行われました。この市場は、年3回4・7・11月に行われていますが、平成最後となる今回の競りは、一頭当たりの平均単価が前回よりも15万円高い765千円となり、最高価格は市場価格として初めて100万円を超えました。繁殖農家が大切に育てた牛たちが次から次へと高価格で取引され、市場はとても活気づいていました。



## 新たな命に高まる期待

トキは現在、繁殖期を迎えており、4月になって、各ペアの産卵情報が次々に入ってきています。現在日本で放鳥されているトキの大半は同一血筋の為、近親交配による影響が懸念されていましたが、昨年中国から提供された「関関(グワングワン)♀」と「楼楼(ロウロウ)♂」の2羽のトキが、先日、佐渡のトキとペアを作って産卵したことが確認され、今後も順調に羽数をふやしてくれるものと感じています。トキは1日おきに3~4個の卵を産み、約1ヶ月ほど抱卵することから、5月には令和元年産まれの子がたくさん巣立ちしてくれるものと期待されています。

